



みちくさ

2016. 10. 31 No. 32

高知に行ってきました

先週、出張で高知へ行ってきました。四度目の高知でした。今回もみちくさをたっぷりして、見聞を広めてきました。

仙台からは高知への直行便がないので、夜の新幹線で東京へ、そして羽田泊まり。翌日の8時に飛行機に乗れば、かろうじて午後からの会議に間に合います。眠い目をこすりながら朝5時に起き、10時には高知市内へ到着しておりました。少し時間があつたので、お城ぐらい見ようかと歩いていたら、知らずのうちに上着をぬいで、そしてワイシャツを袖まくりしてしまいました。出発の時はジャンパーを羽織っていたのに。高知は南国です。とても暑くて驚きました。



二日目に、市内にある高知県立県民体育館という場所で全体会が行われ、全国からだいたい2500人ほどの校長が集まりました。会場に入ってふと壁にある表示を見たら、この場所は海拔ゼロメートル地域であり、津波が押し寄せてきたときには近くのビルに避難してくださいとありました。その時思ったことは、南海トラフ級の大地震が起きて、津波が来たら、2500人も人は、全部避難指定のビルには入れるはずもないし、かなりのパニックになるだろうなということです。また、津波の到達時間は40分から1時間とありました。体育館ですから、地震が来たときに、イベントやスポーツの大会が開かれているという可能性が高いと思います。高い確率でやって来ると予想されている大地震や津波に、高知市としても十分に対応はしているとは思いますが、市内全域が比較的海抜の低い地域にあり、そして海からそんなに離れていないので、とても怖いと感じました。

分科会で「危機管理」の部会に参加しました。宮城から来たということで、様々な地域の方々から震災当日のことを聞かれました。防災の意識をどう高めていくのか。防災のために必要なことは何か。皆、真剣に考えていることが伝わってきました。どこの地域でも災害は起きるということを肝に銘じなくてはと改めて思いました。

史跡の町

本当に高知市内は史跡だらけです。ちょっと歩くと龍馬や武市半平太の生誕地とか、吉田東洋が受難に遭った場所とか、歴史マニアなら喜びそうな場所がたくさんあります。会議が終わってホテルに戻る途中で、「立志社



跡」という史跡を見つけました。高知は板垣退助を生み出した自由民権の土地です。「自由は土佐の山間より出づ」と石碑に書いてありました。維新やその後の明治を作った原動力は、虐げられたたくさんの一領具足や民衆の中から誕生した熱気のようなものなのではないでしょうか。土佐という土地の魅力に触れた思いがします。史跡に偶然出会えると、とっても素敵な気持ちになりますから、まだまだみちくさは続きます。

Queen?

二か月ごとにきちんと散髪屋へ行くようにはしています。先週の土曜日、だいぶ伸びてきたかなと、出張続きで溜まった仕事を片付けに行った帰り、いつもの散髪屋に寄りました。

そこではいつもTBCのラジオがかかっているのですが、「今日のオープニングの曲はこれです」と、なんだか聞き取れなかったミュージシャンの名前が…。曲がかかると、「え？クイーンの曲にこんなあった？」と思うような曲が流れました。ピアノの音に、独特のねばっこいようなギターの音と、それにファルセットのきれいな声が。これってクイーンだよなあ。

なんだったのだろうと、家に帰ってきてこの日の出来事を思い出し、かろうじて覚えていた曲の名前の断片をネットで検索してみると、出てきました。

えっ、そうなの。まだメジャーデビュー間もない新人らしい。それもうちの息子とたいした変わらない年頃。宇多田ヒカルのデビュー曲を最初に聴いたときも驚きましたが、その日もとても新鮮な気持ちになりました。残念なことに、自分の音楽の好みは80年代ですっかり止まっているのです。新しいアーティストの曲を聴いていても、なんとなく心に入ってこないというか。でもこの頃、ふとした時に聴く音楽に、いつもとは違って心を動かされるときがあります。才能の豊かな若い世代が花開き、新しい音楽が息づいてきているなと思います。

昔、初めてチューリップの「魔法の黄色い靴」という曲を聴いたときもびっくりしましたし、キャロルの「ルイジアナ」を聴いたときも驚きました。なんか高校生の頃に戻ったような、わくわく感を楽しみながら、この頃、散歩しながら新しい曲を聴いています。新しい世代が育ってきていることが楽しくてたまりません。

早速、流行のネット購入で曲をゲットしました。CDで買わないところがおじさんらしくありませんかね。

※ちなみに、散髪屋で聴いた曲は slave of love という曲でした

